

## 学習プログラム 事例

# 人権教育に 楽しい学びを

ねらい

楽しく学び合える教材や学習プログラム  
づくりを通して、人権教育の指導者や企画  
者としての知識や技能を高めます。



# 人権教育指導者養成研修会

## 1 事業計画

- (1) 事業名 人権教育指導者養成研修会
- (2) 事業の目的 社会教育における人権教育指導者を養成する
- (3) 実施主体 教育委員会
- (4) 参加対象・定員 社会教育関係団体役員，行政職員等 30名程度
- (5) 学習期間・時間（回数） 4月～9月 6回 計12時間
- (6) 学習場所 公民館
- (7) 学習目標  
効果的な人権教育の学習内容,方法について研修するとともに,教材,学習プログラムの作成など体験的・実践的な研修を通して,指導のための知識や技能など,指導者として資質の向上を図る。
- (8) プログラムの展開

回	学習テーマ	学習の内容	学習支援者	備考
1	楽しく学び合える人権教育（きづく）	(1)人権の概念等について考える。 (2)効果的な人権教育について考える。	行政職員 ファシリテーター	グループ活動 講話  【120分】
2	楽しく学べる教材を作ろう（わかる）	(1)紙芝居を体験する。 (2)教材としての紙芝居について考える。 (3)紙芝居の作り方を知る。	紙芝居作家 ファシリテーター	グループ活動 講話  【120分】
3	楽しく学べる教材を作ろう（ひろげる）	(1)紙芝居のテーマを考える。 (2)紙芝居の題材を考える。 (3)紙芝居のストーリーを作る。	紙芝居作家 ファシリテーター	グループ活動 講話  【120分】
4	楽しく学べる教材を作ろう（つくる）	(1)紙芝居の場面割,絵を考える。 (2)紙芝居のせりふを考える。 (3)紙芝居を制作する。	紙芝居作家 ファシリテーター	グループ活動 講話  【120分】



### 3 学習展開計画

第1回	学習テーマ：楽しく学び合える人権教育（きづく）
学習目標	人権の概念や人権教育で育むべき資質・能力、参加体験型学習などの効果的な学習手法についての理解を深める。

<p>準備物</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県・市町の人権教育方針等 1人1部</li> <li>・ 講話資料 1人1部</li> <li>・ 「ちがいのちがい」カード 1人1部</li> <li>・ 模造紙 各グループ1枚</li> <li>・ 付箋紙 1人10枚程度</li> <li>・ 水性マーカー 各グループ1セット</li> <li>・ ふりかえりシート 1人1枚</li> </ul>	<p>会場図（各テーブル6名）</p> <div style="text-align: center;"> <p>ホワイトボード</p> <p>ファシリテーター（講師）</p> </div>
---	---

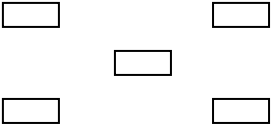
流れ	時間	学習活動	詳細のページ
導入	20分	アイスブレイク 最近うれしかったこと（5分） ペアで、一方が自己紹介、聞いた人は感想を返す交代して 活動（アクティビティ）[グループ活動（6人1グループ）] 話合いのルールづくり（15分） 研修目的、内容や参加体験型学習の進め方を聞く話合いのためのルールを作る	32    33
		活動（アクティビティ）[グループ活動（6人1グループ）] 「楽しい学び」とは 楽しい学びに必要な条件を10個紙に書く（5分） グループで、まとめていく（20分） グループ発表（10分） グループでのふりかえり（5分）	34
展開	50分 (深める)	講話 効果的な人権教育の実践例（15分） 活動（アクティビティ）[グループ活動（6人1グループ）] ちがいのちがい 各自で考える（5分） グループとしての意見をまとめる（15分） 活動のふりかえりと講話（15分）	35   36
		まとめ 活動のふりかえり ・ ふりかえりシートの記入・感想の発表（10分）	38

第2回	学習テーマ：楽しく学べる教材を作ろう（わかる）
学習目標	参加体験型の手法を取り入れた人権教育を進めていく上で、教材として紙芝居を活用する場合の可能性や留意点についての理解を深め、紙芝居作成への意欲を高める。

<b>準備物</b> ・ワークシート 各グループ 1枚 ・マーカー 各グループ 1セット ・紙芝居作成資料 1人1部 ・ふりかえりシート 1人1枚	<b>会場図</b> （各テーブル6名） 
---	--------------------------

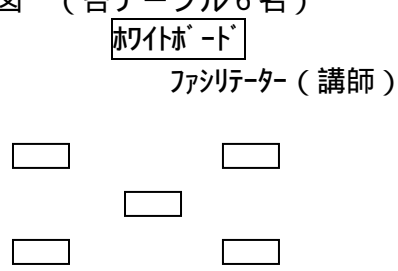
流れ	時間	学習活動	詳細のページ
導入	10分	今日の研修の目的，内容及び留意点の説明（5分）  アイスブレイク あいさつしましょう！（5分） ・1分間で，できるだけ多くの人と握手してあいさつする	39   39
	30分 (気づく)	紙芝居体験 紙芝居の楽しさを感じてみよう ・講師の作成した紙芝居を鑑賞する（30分）	39
展開	40分 (深める)	活動（アクティビティ）[グループ活動（6人1グループ）] 人権教育の教材としての紙芝居 紙芝居の良さなどについて各自で考える（10分） グループとしての意見をまとめる（20分） 活動をふりかえる（10分）	40
	30分 (わかる)	講話 紙芝居の作り方（30分）	41
ふりかえり	10分 (わかちあう)	まとめ 活動のふりかえり ・ふりかえりシートの記入（5分） ・感想の発表とまとめ（5分）	41

第3回	学習テーマ：楽しく学べる教材を作ろう（ひろげる）
学習目標	グループごとに紙芝居のテーマ，題材，ストーリーなどを話し合い，決定する。

準備物	会場図（各テーブル6名）
・ワークシート 各グループ1枚	ホワイトボード
・マーカー 各グループ1セット	ファシリテーター（講師）
・紙芝居作成資料 1人1部	

流れ	時間	学習活動	詳細のページ
導入	5分	今日の研修の目的，内容及び留意点の説明（5分）	42
展開	45分 (気づく)	活動（アクティビティ）[グループ活動（6人1グループ）] 身近な人権課題をテーマに 紙芝居のテーマを考える（15分） グループとしての意見をまとめる（30分）	42
	65分 (深める)	活動（アクティビティ）[グループ活動（6人1グループ）] 親しみの持てる題材を テーマに従って，題材を考える（15分） グループとしての意見をまとめる（15分） 決まった題材を基にストーリーを組み立てる（35分）	43
ふりかえり	5分 (わかちあう)	まとめ 活動のふりかえり ・グループの中で感想を交流する（5分）	43

第4回	学習テーマ：楽しく学べる教材を作ろう（つくる） 省略
-----	----------------------------

第5回	学習テーマ：学習プログラムを作ろう（つかう）	
学習目標	グループごとに作成した紙芝居を使った学習プログラムを作成する。	
準備物	・ワークシート2種 1人各1枚 ・紙芝居 ・ふりかえりシート 1人1枚	会場図（各テーブル6名） <div style="text-align: center;">  </div>

流れ	時間	学 習 活 動	詳細のページ
導 入	5分	今日の研修の目的，内容及び留意点の説明（5分）	4 4
展 開	15分 (気づく)	<b>講話</b> <b>学習プログラムの作り方</b> ・学習プログラムを作る上で必要な事項や，手順，留意点などについて講話を聞く（15分）	4 4
	90分 (深める)	<b>活動（アクティビティ）[グループ活動（6人1グループ）]</b> <b>プログラムを作ってみよう</b> 紙芝居を活用した学習活動の事業計画をグループで作成する（20分） 事業計画を基に学習展開を各自で考える（30分） 学習展開をグループでまとめる（40分）	4 5
ふりかえり	10分 (わかちあう)	<b>まとめ</b> <b>活動のふりかえり</b> ・ふりかえりシートの記入（5分） ・感想の発表とまとめ（5分）	4 5

第6回	学習テーマ：学んだことを発表しよう（つたえる）	省略
-----	-------------------------	----

## 4 「学習活動」の詳細

### 第1回 学習テーマ：楽しく学び合える人権教育（きづく）

#### アイスブレイク 最近うれしかったこと

##### 活動の ねらい

参加者の緊張をやわらげるとともに参加者どうしの親近感を高め、スムーズなコミュニケーションを促します。

##### 準備物

特になし

##### 活動の進め方

- 1 となりどうしでペアになります。
- 2 「最近うれしかったこと」を入れた自己紹介を相互に行います。
- 3 はじめに、一方の人が自己紹介をします。持ち時間は1分ないし2分とします。  
もう一方の人は、心を傾けて、うなずくなど、一生懸命に聴きましょう。
- 4 自己紹介が終わったら、聞き手の人は、感想を伝えてあげましょう。
- 5 今度は、役割を入れ替えて、同じように繰り返します。

簡単なゲームなどでペアづくりする方法もあります。

時間は、講座全体の長さや、参加人数によって調整します。長すぎるのも緊張感が無くなるので注意しましょう。

一生懸命聞くことで、話すほうも話しやすくなります。

また、感想を伝えることで、話し手は聞いてもらっているという実感が持てます。自己肯定感を高める上でも大切なことです。





## 活動（アクティビティ）

## 話し合いのルールづくり

### 活動のねらい

今日の講座の流れや参加体験型学習の意義、留意点などについて、参加者に伝えます。

### 準備物

A4用紙 1人1枚

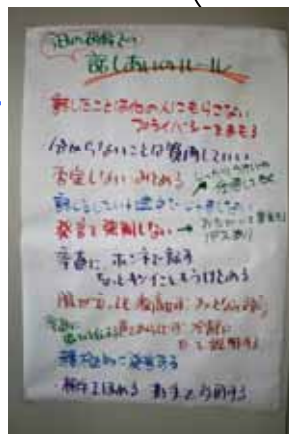
### 活動の進め方

- 1 運営者から、この講座のねらいや流れについての説明を聞きます。
- 2 ファシリテーターから、参加体験型の手法を使うことやその意義と、話し合いや活動を中心にするこの手法の特性から、ルールづくりが必要であることについて説明を聞きます。
- 3 安心して話し合いをするために、また、みんなが参加できるようにするために、必要と思われるこの講座でのルールを各自でA4用紙に書き出します。
- 4 6人のグループで、各自が考えたルールを交流し、全員で共有したいルールをいくつか選びます。
- 5 選んだルールを各グループから発表します。ファシリテーターは、出されたルールをホワイトボードに書き出します。
- 6 出されたルールについて、全員で検討し、ルールを決定します。

ことばで説明するだけでなく、ホワイトボードや模造紙に簡単に書いて掲示しておくことで、参加者は活動の途中でもねらいや今日の部分の活動を行っているのかが良くわかります。

相互の尊重や、守秘義務など、参加体験型学習で基本となるルールが参加者から出されない場合は、ファシリテーターから提案し、参加者の同意を得てルールに加えましょう。

決まったルールは、模造紙などに書き出し、講座の最終日まで掲示しておくといでしょう。



## 活動（アクティビティ）

## 「楽しい学び」とは

### 活動のねらい

参加者の学習意欲を高めるための「楽しい学び」の条件を考慮することで、効果的な学習方法、内容などについての理解を深めます。

### 準備物

模造紙 各グループ1枚  
マーカー         "  
付箋紙 1人10枚程度

### 活動の進め方

- 1 席の近い人どうして6人程度のグループになり、お互いに簡単な自己紹介をします。
- 2 はじめに、ブレインストーミングの手法を使って5分間で「楽しい学び」のために必要な条件を各自10個ずつ考え、一つずつ付箋紙に書き出します。
- 3 グループ全員で話し合いながら、模造紙の上に記入した付箋紙を並べて仲間分けします。
- 4 それぞれのまとめりごとにマーカーで見出しを付け、まとめり相互の関係性を考えます。（KJ法）
- 5 作成した模造紙について、グループごとに全体へ発表します。
- 6 他のグループの発表を聞いて、特に「学習方法、内容」に絞って「楽しい学び」のために何が必要かをもう一度グループで話し合います。

最初のペアで、他己紹介(自分のペアについて、グループのメンバーに紹介する。P58参照)を  
する方法もあります。

10個でなくてもかまいませんが、できるだけ多くの考えを集めるために、ここでは10個という数を示します。時間の長短などによって示す数を変えます。

様々な条件を整理することで、理解を深めます。そのためには、グループの中での話し合いが活発に行われる必要があります。

次の活動へつなげるために、ここでは「学習方法、内容」にテーマを絞って再度話し合い、課題を明確にしておきます。



## 講話

## 効果的な人権教育の実践例

### 活動の ねらい

学習意欲を高める人権教育の内容や方法，その実践例についての講話を聞きます。

### 準備物

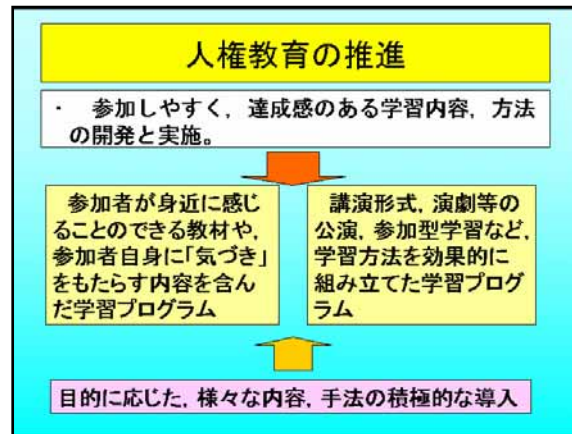
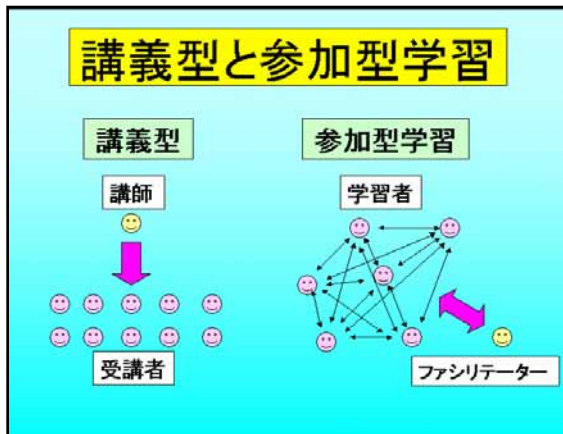
講話資料 1人1部

講師には，講座のはじめから参加してもらい，「楽しい学び」についての活動で参加者から出された意見を交えながら，人権教育において学習意欲を高めるための効果的な内容，方法の理論的な解説をしてもらうと良いでしょう。

また，質疑の時間をとると，より効果的です。



### 【講話資料の例】



## 活動（アクティビティ）

## ちがいのちがい

### 活動の ねらい

人権教育の様々な学習方法の中から、「参加体験型」の手法を体験し、その効果や、留意点について学びます。

### 準備物

「ちがいのちがい」カード  
1人1枚  
ふりかえりシート  
1人1枚

### 活動の進め方

- 1 各自で、「ちがいのちがい」カードを見て、「あっていいちがい」、「あってはいけないちがい」、「どちらともいえないちがい」に分類します。
- 2 前の活動の6人グループで、一つ一つの「ちがい」について話し合いをしながらグループとしての意見をまとめます。
- 3 グループで出された意見を全体へ発表します。
- 4 「あっていいちがい」、「あってはいけないちがい」に共通するところや、意見が分かれた「ちがい」について、全体で意見を交流します。
- 5 各自で、ふりかえりシートを記入し、この活動で感じたことなどをグループで交流します。
- 6 ふりかえりの中で出された参加者の気づきや発見を基に、人権の概念や人権尊重の理念、この活動のねらい等についての講話を聞きます。

理由もあわせて考えてもらいます。

グループの中で意見が分かれる「ちがい」もありますが、ここでは、できるだけ意見をまとめるように指示し、話し合いを活性化しましょう。意見をまとめるようにすることで、様々な意見が交流されます。

ここでは、結果だけではなく、話し合いの過程で出された意見についても発表してもらいましょう。

この活動では、人権について講話を聞いて理解するのではなく、活動中での参加者自身の“気づき”から理解を深めることの有効性を感じてもらうことが大切です。



## 【「ちがいのちがい」カードの例】

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">ちがいのちがいカード</div>		
<p>まずは自分で考えてみましょう</p> <p>あっていいちがい      あってはいけないちがい   ×   よくわからない   ？</p>		
<p>[カード 1]</p> <p>先生はパーマをかけてもよいが、生徒はいけない。</p>	<p>[カード 2]</p> <p>Aさんは中学卒業後ガソリンスタンドで働いているが、Bさんは高校に進学した。</p>	<p>[カード 3]</p> <p>女性用トイレは全部個室だが、男性用トイレは個室ばかりではない。</p>
<p>[カード 4]</p> <p>C君は牛乳パックの回収に熱心だが、D君はティッシュペーパーを使い放題だ。</p>	<p>[カード 5]</p> <p>E レストランにはスーツを着ている人は入れるが、ジージャンでは入れない。</p>	<p>[カード 6]</p> <p>イスラム教徒は豚肉を食べないが、ヒンズー教徒は牛肉を食べない。</p>
<p>[カード 7]</p> <p>日本では食事のときに箸を使うが、インドでは指を使って食べる。</p>	<p>[カード 8]</p> <p>大阪市では 80m のビルを建てるができるが、京都市ではできない。</p>	<p>[カード 9]</p> <p>F 国では大統領を批判した本は発売禁止になるが、G 国ではならない。</p>
<p>[カード 10]</p> <p>H さんの家では、必ず父親が先に風呂に入るが、I さんの家では決まっていない</p>	<p>[カード 11]</p> <p>東京では 1DK の家賃が約 10 万円だが、地方では半額程度のところもある。</p>	<p>[カード 12]</p> <p>J 国に住む 10 歳の K さんは毎日小学校に行っているが、同じ歳の L 国の M さんは毎日路上でガムを売っている。</p>
<p>[カード 13]</p> <p>N 市のスナックでは女性だけのグループは飲食代が 2 割引だが、男性には割引はない。</p>	<p>[カード 14]</p> <p>O さんはどこでも旅行できるが、車椅子の P さんは独りで電車やバスに乗ることができない。</p>	<p>[カード 15]</p> <p>日本の国会議員は圧倒的に男性が多いが、クオーター制などで女性議員の割合が決められている国もある。</p>

## 【「ちがいのちがい」ふりかえりシートの例】

### 「ちがいのちがい」ふりかえりシート

- 1 「あっていいちがい」に共通するもの（特性，特徴，基準）は，何でしょう？
- 2 「あってはいけないちがい」に共通するものは何でしょう？
- 3 「どちらともいえない」カードに共通するものがありますか？
- 4 あなた個人の結果とグループの結果のちがいから，考えたことは？

## まとめ

## 活動のふりかえり

### 活動の ねらい

第1回の講座の中で，気付いたこと，感想などをグループで話し合い，発表することで，学習のふりかえりをします。

### 準備物

ふりかえりシート

1人1枚

### 活動の進め方

- 1 各自で，今日の活動の中で気付いたこと，疑問，感想など，自由に記入します。  
ふりかえりシートは，23ページのものを使うこともできます。
- 2 グループ内で，1人ずつ記入した内容を話し，意見交換します。ただし，意見をまとめる必要はありません。
- 3 代表者がグループで出された意見等を全体へ発表します。

## 第2回 学習テーマ：楽しく学べる教材を作ろう（わかる）

### はじめに 今日の研修の内容

- 1 今日の研修会の趣旨，内容説明
- 2 前回決めたルールの確認  
（参加体験型学習で，参加者が留意することを説明）

### アイスブレイク あいさつしましょう！

#### 活動のねらい

より多くの参加者とのコミュニケーションをはかり，緊張感をほぐします。

準備物  
特になし

#### 活動の進め方

- 1 全員で会場内を歩き，前回あまり話をしていない人を中心に，相手を見つけて握手し，あいさつをします。1分間で，出来るだけ多くの人とあいさつします。

あいさつだけではなく，たとえば，“今，自分が興味を持っているもの”などを伝え合うといった条件を付けるのも良いでしょう。

### 紙芝居鑑賞 紙芝居の楽しさを感じてみよう

#### 活動のねらい

講師の作成した紙芝居を鑑賞し，その良さを感じます。

準備物  
特になし

ここでは，特に何か指示をするのではなく，紙芝居の良さをしっかり感じてもらうようにします。



## 活動（アクティビティ） 人権教育の教材としての紙芝居

### 活動のねらい

鑑賞して感じたことなどから、人権教育の教材としての紙芝居の有効性や留意点などについて、グループで検討します。

### 準備物

ワークシート 1人1枚

### 活動の進め方

- 1 紙芝居を作成する6人程度のグループで、お互いに簡単な自己紹介をします。
- 2 SOWT分析の手法を使い、まず各自で、紙芝居を人権教育の教材にする場合のメリット、デメリットなどをワークシートに記入します。
- 3 グループで、ワークシートを基に意見を交流します。
- 4 出された意見を基に、紙芝居を制作、活用する際の留意点や、アイデアをまとめます。
- 5 グループで話し合った内容について、全体へ発表します。
- 6 他のグループの発表を聞いて、まとめた留意点、アイデアについてもう一度グループで話し合い、修正します。

前回のグループのままを進めることもできますが、各参加者が紙芝居で取り上げたいと考えている人権課題をあらかじめ把握してグループを決めておいたり、勤務先の地域ごとにグループを作るなど、実態に応じて工夫します。

ワークシートを基に交流を深めることで、「紙芝居」という手法の特徴が明確にされることが必要です。

ここでまとめたものが、今後紙芝居を制作する時にグループの基本的な方針になるということを参加者に意識してもらいます。

### 【SWOT分析】

強さ・メリット (Strength)	弱さ・限界 (Weakness)
機会・可能性 (Opportunity)	危険性・デメリット (Threat)

分析を通して、紙芝居の特徴を明確にすることで、弱さや危険性を克服し、メリットを生かし、可能性を拡げるための内容、活用方法の工夫について協議します。



## 講話 紙芝居の作り方

### 活動のねらい

紙芝居の制作について、講師による講話を聞き、これからグループで行う活動についての理解を深めます。

### 準備物

講話資料 1人1部

テーマや登場人物、シチュエーションの設定から、ストーリーづくり、台本の作成、場面割りと絵の決定など、具体的な紙芝居を基に、順序を追って解説してもらいます。

なお、紙芝居制作が初めての参加者が多い場合は、質疑の時間もしっかりとる必要があります。



## まとめ 活動のふりかえり

### 活動のねらい

今日の活動で、気付いたこと、感想など、グループで話し合います。

### 準備物

記入用紙 1人1枚

### 活動の進め方

- 1 各自で、今日の活動で気付いたこと、疑問、感想など、自由に記入します。
- 2 グループ内で、1人ずつ記入した内容を話し、意見交換をします。ただし、意見をまとめる必要はありません。

## 第3回 学習テーマ：楽しく学べる教材を作ろう（ひろげる）

### はじめに 今日の研修の内容

- 1 今日の研修会の趣旨，内容説明

### 活動（アクティビティ）

### 身近な人権課題をテーマに

#### 活動のねらい

身近な人権課題から，紙芝居のテーマを決定します。

#### 準備物

特になし

#### 活動の進め方

- 1 身近なところにある人権課題の中で，紙芝居のテーマにしたいものを各自で考えます。
- 2 グループの中で，各自が考えた人権課題について，理由を含めて具体的に意見交換します。
- 3 話し合いによって，紙芝居のテーマを決めます。
- 4 各グループのテーマ設定とその理由について全体へ発表します。
- 5 それぞれの発表について，講師から紙芝居にする際の留意点などについて助言をもらいます。

人権課題ごとにグループを作っている場合は，それぞれなぜこの課題を選んだのかについてグループの中で出し合います。

テーマに含まれる人権課題は一つとは限りません。いくつかの人権課題が含まれることもあります。



## 活動（アクティビティ）

## 親しみの持てる題材を

### 活動のねらい

決まったテーマに基づいて題材を決め、ストーリーを作ります。

### 準備物

ワークシート 1人1枚  
各グループ1枚

### 活動の進め方

- 1 決まったテーマに基づいて、各自で題材のワークシートに記入します。
- 2 グループで、各自が作成したワークシートを交流しながら、グループの題材を決定します。
- 3 題材を基に、ストーリーを作ります。

講師には適宜各グループに助言してもらいます。

### 【ワークシートの例】

誰が？	何を？
どこで？	どうした？

紙芝居を上演する対象者なども考慮し、より身近でわかりやすい題材を作ります。

グループ全員で、意見を出し合いながら作ることが大切です。

## まとめ

## 活動のふりかえり

### 活動のねらい

今日の活動で、気付いたこと、感想など、グループで話し合います。

### 準備物

記入用紙 1人1枚

### 活動の進め方

- 1 グループ内で、今日の活動の気付き、感想などを意見交換をします。

第4回，第6回は省略

## 第5回 学習テーマ：学習プログラムを作ろう（つかう）

### はじめに 今日の研修の内容

- 1 今日の研修会の趣旨，内容説明

### 講話 学習プログラムの作り方

活動の  
ねらい

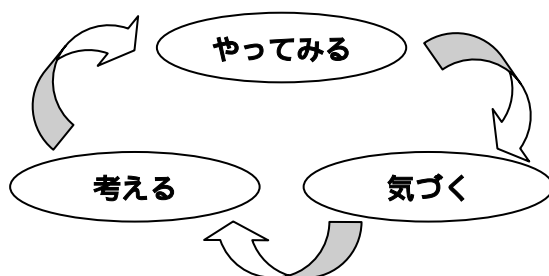
学習プログラムの作成について，講師による講話を聞き，理解を深めます。

#### 準備物

講話資料 1人1部  
ワークシート  
1人各1枚

学習プログラムとはどのようなものか，また，学習プログラムを作成する上で明確にしておくべきことや，留意点などについて，具体例やワークシートを参考に理解を深めます。

#### 参加体験型学習のプロセス



## 活動（アクティビティ） プログラムを作ってみよう

### 活動のねらい

紙芝居を活用した学習プログラムをグループで作成します。

### 準備物

ワークシート

1人各1枚

### 活動の進め方

- 1 グループで、学習プログラムの基本事項について話し合い、「ワークシート1」に記入します。
- 2 グループで決めた基本事項に基づいて、各自で学習プログラムの構成を考え、「ワークシート2」に記入します。
- 3 グループで、ワークシート1、2を基に意見を交流します。
- 4 出された意見を基に、グループとしての学習プログラムの構成を完成させます。

基本事項やワークシートについては、講話の中で講師から説明してもらいます。

特に、紙芝居上演の前後の活動について工夫するように促します。

時間があれば、できあがったプログラムを他のグループにも印刷、配布し相互にアドバイスするのも良いでしょう。

## まとめ

## 活動のふりかえり

### 活動のねらい

今日の活動で、気付いたこと、感想などをグループで話し合います。

### 準備物

記入用紙

1人1枚

### 活動の進め方

- 1 グループ内で、今日の活動の気付き、感想を意見交換をします。

【資料・プログラム提供：桜井・法貴グローバル教育研究所代表 桜井高志 / じんけん楽習塾 大谷真砂子 / ゆめなか@情報局 中村由利江 / 東広島市教育委員会】

**【ワークシート1】**

## 学習プログラムの基本8事項+1

	タイトル
1	目的
2	対象者
3	背景
4	目標
5	内容
6	方法
7	構成
8	おもしろさ
9	継続・発展

【作成者：桜井・法貴グローバル教育研究所代表 桜井高志】

【ワークシート 2】 ( P 1 2 ~ 1 3 を簡潔にしたものです)

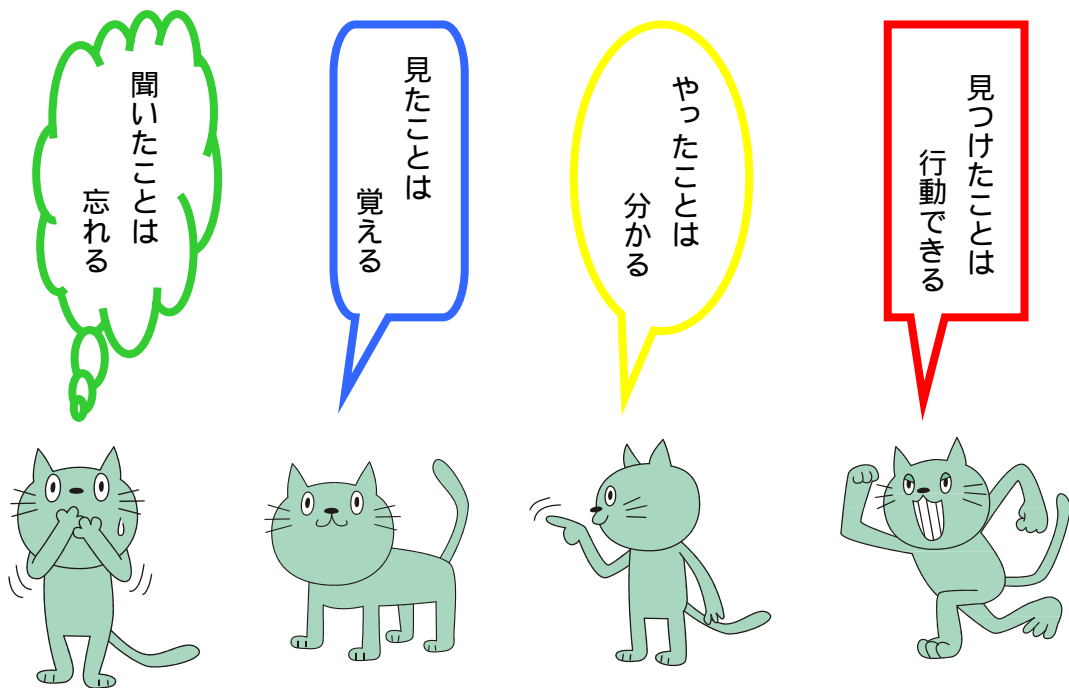
## 1 事業計画

- (1) 事業名
- (2) 事業の目的
- (3) 実施主体
- (4) 参加対象・定員
- (5) 学習期間・回数・時間
- (6) 学習場所
- (7) 学習目標

## 2 学習展開計画

準 備 物	会 場 図
-------	-------

流 れ	時 間	学 習 活 動	学 習 支 援 者
導 入			
展 開			
ふりかえり			



「福山市参加体験型学習人権教育推進連絡協議会」事業報告書 表紙より